

岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	令和7年度 森林・水産研究会 現地研修会 (CPD 番号 No.7 - 7)
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 森林・水産研究会
日 時	2025 年 10 月 10 日 (金) 8 : 00～17 : 30
場 所	釜石市 岩手県水産技術センター 大船渡市 林野火災現場
参加人数等	参加者 17 名 案内：岩手県水産技術センター 岩手県大船渡農林振興センター森林保全課
活 動 内 容	
以下のテーマによる現地研修会を実施した。 ①岩手県水産技術センター見学 10 : 00～11 : 40 (100 分) 案内：岩手県水産技術センター 副所長 日向様 各部ご担当者様 →いわての水産概要、海水面温度上昇による漁獲物の違い、最新の研究内容、センター施設設備などを説明していただいた。2017 年 8 月から続いた黒潮大蛇行が 2025 年 4 月に終息し、黒潮の流れが本来のルートに戻りつつある。 ②大船渡市綾里地区林野火災対策現場見学 13 : 30～15 : 00 (90 分) 案内：大船渡農林振興センター森林保全課 主査 高橋 直也様 技師 浅沼 光 様 →被災溪流 2 箇所を見学し、大船渡市林野火災の被災概要および復旧に向けた取り組みなどを説明していただいた。被害木の被害区分の違いや下層植生の復旧状況の違いを現地で確認した。樹冠の焼損具合により、下層植生の復旧状況が異なる。下層植生の無い溪流では、夏の大雨による土砂流出が確認されている。ただし、応急対策として下流に大型土のうを設置していたことより、下流への被害は見られなかった。 現地研修会①では、サケの減少課題を解決するため、北海道沖で放流する移送放流試験を行っている。また、新たな貝類養殖の事業化に取り組んでいることを知ることができました。 現地研修会②では、林野火災として平成以降で国内最大規模の約 3,700ha の被災であり、山地災害の防止も含め、被害木の処理や利用、森林の復旧に向けた取り組みを知ることができました。 各研修ではたくさんの質問があり、時間が足りないほど大変有意義な研修会となりました。 今後も現場研修会を通じて技術の研鑽に努めて参ります。 以上－(文責 佐々木)	
 岩手県水産技術センターでの研修状況	
 林野火災対策現場見学	
 集合写真	